

7/8(月) まっ心! 倫理号です。どうやら梅雨が明けぬような天気です  
何故捨てる出来ないでいる。そのお役に立てようか必要であるだろう

...けど「積んじく」だけ 自己満足の世界。2013. 7. 6~7. 12

物を捨てる心は執着する心を捨てる、  
我も捨てる... 何が出来るか、何にか発見出来るかも。

828号

幸せ運ぶアホ鳥

unnecessary物を捨てることができずに、物に  
囲まれて仕事をしている人は、意外と多いの  
ではないでしょうか。

次の短歌は、倫理研究所の創立者・丸山敏  
雄が弟子の一人に贈ったものです。

すてにすてすてて又すてすててこそ  
まことの我はあらはれるとしれ

Aさんは以前、 unnecessary物を捨てること  
ができずにいました。さらには整理整頓も苦手  
でした。ある日の経営者セミナーで、様々な  
物を捨てた経営者の体験談を聞きました。そ  
こで「まず捨てる実践を始めよう」と決意し  
たのです。

一日目は、自分の身近な物を捨てることに  
しました。はじめは、自室の書斎からです。  
Aさんは経営者という立場から、多くの本を  
読みます。本は情報を仕入れるツールですが、  
その時代が過ぎれば情報は古くなります。も  
ちろん「座右の書」のような一生、傍らに置  
いて何かあった時に開く本もあるでしょう。  
しかしそれ以外の本は思い切って処分する  
ことにしました。そうして不要になった本の  
中には書店で購入し、まったく読まずにいた  
ものもあり、結局三分の二の本を処分するこ  
とになったのです。

次は、クローゼットやダンス等に入りきら  
ないほどの衣服です。その多くは、体型の変  
化により、着ることができなくなってしまう  
たものです。「あと三キロ痩せれば...」そう  
思いつつ、捨てることを躊躇していた衣服は、



## 執着を捨てきった時 真の自分に出会える

絵・今谷 鉄柱

いつまで経ってもその日は訪れませんでした。  
体型回復を待たずして、着る機会のない  
衣服を半分以上処分しました。

二日目は、会社の机や書棚に乱立する書類  
の処分です。会議の議事録、新聞のスクラッ  
プなどの資料や原稿、半年間、目にしていな  
い書類はすべて処分しました。

二日間を通じて、Aさんは、今まで物を捨  
てられなかった理由がわかりました。

整理整頓をする際、捨てる物と残す物を分  
類します。しかし双方に該当しない物があつ  
たのです。つまり、分類しようとしても捨て  
るか残すかの判断がつかない物です。これら  
の物が、捨てる事が出来ずに、会社の自分  
の机周りを乱している原因だったのです。

以後Aさんは「どうしようか迷った物」も  
すべて処分することにしました。不要な物  
を処分した時、残された物は、本当に必要な  
物だけであることにAさんは気づきました。

ほんとうは、人間は無くなるようなものな  
んか、もっていないのである。なくしたように見  
えるのは、実は自分の本当の姿に返ったのであ  
り、ほんとうの自分の真面目に返ったのだから  
それが、うそのない自分である。(『歓喜の人  
生』)

物を捨てるという行為は、執着する心、捉  
われる心を捨てることです。冒頭の短歌のよ  
うに、捨てて捨てきった時、本当の自分自身  
が現われるものです。

今一度、自分の周囲を見回してみましよう。  
 unnecessary物を思い切って捨てる事が、真の  
自分への第一歩と心しましよう。